

付録. 字書・韻書の「衞衞」の形態素「衞」「衞」

時代	資料名	「衞」の有無・韻・注	「衞」の有無・韻・注
前漢以前	『蒼頡篇』	×	「{「行」の中に「甬」}」として存在。“巷道”
後漢 BC100年	許慎『説文解字』	×	“通街也。从行，同声”
三国 6C	『玉篇残卷』(日本)	×	×(行部の卷は残っていない)
唐	王仁煦『刊謬補缺切韻二』	×	(東の韻)“通街”
宋 997	积均行『龍龕手鑑』	×	“同洞二音一通街也”
1008	陳彭年『広韻』	×	(韻上平)“通街也”
1013	『大広益会玉篇』	×	“徒東切下也亦通街又徒弄切”
1039	丁度等『宋刻集韻』	×	(平聲)“通街也”
1067	司馬光『類篇』	×	(重音)“徒東切通街也又徒弄切文一重音一”
南宋 1184	王与秘『篇海』	×	○
金 1196	韓孝彦『五韻篇』	×	○
1208	韓道昭『四声篇海』	×	○
1212	韓道昭『五韻集韻』	×	○
元 1297	黄公紹・熊忠『古今韻会举要』	×	(平聲)“通街也又送韵”
明 1375	楽韶鳳・宋濂『洪武正韻』	×	(平聲)“通街也又(送)”
1467	重刊本『四声篇海』	×	○
1470	『重刊改并五音集韻』	×	(定の字母)“通街也”
1471	重刊本『四声篇海』	×	○
1515	重刊本『四声篇海』	×	○

1517	崔世珍『四聲通解』(朝鮮)	○(但し、「衞」の注の中に「衞衞」として)	(韻母東、字母定)“通街今俗呼衞一골”
1519	重刊本『四声篇海』	×	○
1527	崔世珍『訓蒙字会』	“골 호”	“골 동 俗講衞一”
1560	張爵『京師五城坊巷衞衞集』	○	○
1575	重刊本『四声篇海』	○	○
1589	重刊本『四声篇海』	○	○
1592	沈榜『宛署雜記』	○	○
1608	偽・宋濂『篇海類篇』	○	○
1615	臧懋循『元曲選』	○	○
1629	梅膺祚『字彙』	“洪孤切音胡衞衞街也”	“徒紅切音同通街也。又去聲徒弄切義同”
1629	重刊本『四声篇海』	“上胡下同，今呼通街衞衞。今增。”	“徒紅切音同通街也。又去聲徒弄切義同”
1634	重刊本『重刊訂正篇海』	“音胡一通街也”	“定濁徒紅切音同通街也又去聲音洞注同”
1671	張自烈『正字通』	“洪无切音胡衞衞街也今京師巷道名衞衞或省作胡同同{彳吾}{彳同}南齋書西弄註弄巷也南方曰弄北曰{彳吾}{彳同}皆方言也”	“定濁徒紅切音同通街也又去聲音洞注同” “徒紅切音同說文通街也～又送韻音洞義同”
清 1716	陳延敬『康熙字典』	<b>音</b> 〔篇海〕音胡厂又平虞 <b>義</b> 衞衞街也〔正字通〕京師街道曰衞衞	<b>音</b> 〔唐音〕徒紅切〔集韻〕徒東切 音同 平東〔広韻〕徒弄切音洞 去送
1807	段玉裁『說文解字注』	○(但し、「衞」の注のなかに「衞衞」として記載)	<b>義</b> ①〔玉篇〕下也亦通街也 ②〔山海經〕勞水多飛魚狀如鮒魚食之已痔衞“通街也。衞通疊韻。京師衞衞字如此作。”